

委員会先進地視察報告書総括表

1 視 察 日	令和 6 年 11 月 7 日 ～ 11 月 8 日			
2 視察地・項目	①	東京 都 町田 市	議会改革(活性化)の取組について ・高校生との意見交換会 ・字幕表示や委員会のインターネット中継の反響、効果	
	②	東京 都 墨田 区	議会改革について	
	③	県	市・町	
	④	県	市・町	
3 参 加 者	1.	中崎 秀紀	委員長	8. 里脇 清隆 委員
	2.	竹森 学	副委員長	9. 朝長 英美 委員
	3.	入江 詩子	委員	10. 村上 秀明 委員
	4.	堀内 学	委員	11. 城 幸太郎 議長
	5.	中村 仁飛	委員	12. 田中 博文 副議長
	6.	村崎 浩史	委員	13. 川添 太介 書記
	7.	永尾 高宣	委員	
4 視 察 経 費	828,270 円 ※ (13) 人分			

議 会 運 営 委 員 会 視 察 報 告 書

報告者 入江詩子

1 視 察 日	令和 6 年 11 月 7 日		
2 視 察 地	東京 県 町田 市・区・町・村		
3 参 加 者	議会運営委員会		川添 太介 随 行 書 記
	1. 中崎 秀紀 委員長	7. 永尾 高宣 委員	
	2. 竹森 学 副委員長	8. 里脇 清隆 委員	
	3. 入江 詩子 委員	9. 朝長 英美 委員	
	4. 堀内 学 委員	10. 村上 秀明 委員	
	5. 中村 仁飛 委員	11. 城 幸太郎 議長	
	6. 村崎 浩史 委員	12. 田中 博文 副議長	
4 視 察 項 目	①高校生との意見交換会 ②字幕表示や委員会のインターネット中継の反響、効果		
5 視察先選定理由・目的	町田市では議会改革に先進的な取り組みを行っているため		
	町田市議会改革の特徴 1.議会基本条例などは策定せずに、出来る事からトライして変えていく。 2.外に出る改革ではなく、議会に関心を持ってもらう改革、議会に来てもらう改革。内側に扉を開く。 3.議会運営委員会と特別委員会の二つの会議体で進めてきた。行政視察後の協議事項に入れ、揉んでもらってきた。 ①高校生との意見交換会 町田市では、小学3年時に議場見学を行い、中学生は職場体験学習で議会でつながりを持ってきたが、高校生向けのプログラムはなかったため、平成29年11月11日に初めて開催に至った。 第1回を迎えるにあたり、参加者の募集の件にとっても苦労した。町田市内の高校を卒業した議員が出身高校を訪問し、先生に協力の依頼、もしくはイベントの趣旨等もご説明をいただくなどして11名が集まった。第2回以降は議会事務局が引き継ぎ、できるだけ多くの高校生の参加を促すため、各高校の先生に協力してもらっている。 第1回は平成29年11月11日に高校生11名と議員5名でグループを組み『町田をどう作る？』というテーマで、ワークショップ形式での意見交換をスタートした。コロナの関係で中止したが、本年第7回目を先日終えた。 ●アプローチの方法 参加者の募集の対象は、町田市在住者または在学者。市内の窓口になる高校教員を訪問し、電話メール等と説明もしくは放送、ポスターの掲示依頼など募集のお願いをし、先生に取りまとめてもらい、申し込みしてもらう。議会やホームページ、プレスリリースなどで公募による募集も行っている。第6回以降については、市議会ホームページに参加申し込みフォームを設けている。 また、当日の様子をまとめたダイジェスト動画を市議会ホームページと町田市の公式YouTubeチャンネルで公開した。今年度の第7回に際しては、先生の方にも活用いただき、保護者に勧誘してもらっている。		

6 視 察 内 容	●効果・反響について アンケートの結果概ね良好である。 ●高校生からの意見や要望等をどのように生かすか 第2回の開催後には、高校生からの具体的な意見を盛り込んだ実施報告書を、議長、副議長、議会運営委員長、広報委員会の委員で、市長に手渡しした。また、当日の動画を一緒に視聴する取り組みを行った。 第5回、第6回については、議長から市長に報告書を手渡し、報告書の内容について一部回答をもらい、高校生にフィードバックしている。また議員自身が一般質問で取り上げることもあるが、意見交換会を11月に行っている関係で、12月定例会が多い。 第7回を終える中で、参加した高校生からこの意見交換会をもっと取り組みとして広めた方が良いとか、今回参加した1年生2年生は来年も行きたいという話もある。 ②委員会のインターネット中継の反響、効果 平成15年、費用面でインターネットの費用が掛からなかったので本会議の生中継、オンデマンド録画中継を開始した。庁舎移転に伴い可動カメラで委員会中継も開始した。現在は4委員会でマイクが押されるとカメラが自動的に中継をするものになっているが、傍聴者が意図せず映り込む危険性があるのでさまざまな配慮を行っている。ユニット数にも配慮して、執行部が全員座れるようにし、マイクの数も決めた。 ●反響 本会議は部長クラスしか出席しないが、委員会には課長クラスも出席するため、中継に対しての不満も聞かれた。委員会は2つ同時に開催しているので、4つの委員会室の半分を部下が控室として利用し、上司が困っている時はすぐにメモを届けられるので対応が速くなっている。部課長が答弁を間違えたときも然りで、部下から間違えの指摘がすぐに入ようになった。 中継録画に関しては内容ごとに切り出して編集をしているので、市民の方も感心のある議案を見つけやすくなっている。委員会室の座席は、答弁者が立たずに発言できるような円形型にしている。 ③字幕表示の設置について 10年ほど検討を重ね、令和6年(2024年)第1回定例会から、議場傍聴席モニター・本会議中継における字幕表示の開始や議場カメラ等のデジタル化に伴う中継映像の画質向上等、傍聴・視聴環境を整備している。本会議中継中にリンク先からアクセスすることで、字幕が表示された中継を視聴することができる。音声を変換するにあたり、誤字が多いが、実際の正式な記録ではないということで理解をもらっている。
7 委員会所見	1.議会基本条例などは策定せずに、出来る事からトライして変えていく。 2.外に出る改革ではなく、議会に関心を持ってもらう改革、議会に来てもらう改革。内側に扉を開く。以上の点は、自治体規模にかかわらず、本市における取り組みにも参考になるものと思われる。 資料:https://www.gikai-machida.jp/pdf/gikaikaikaku202305.pdf

議会運営委員会先進地視察報告書

報告者 中村 仁飛

1 視 察 日	令和 6 年 11 月 8 日		
2 視 察 地	東京都墨田区		
3 参 加 者	議会運営委員会		
	1 中崎 秀紀 委員長	5 永尾 高宣 委員	9 入江 詩子 委員
	2 竹森 学 副委員長	6 里脇 清隆 委員	10 中村 仁飛 委員
	3 村上 秀明 委員	7 村崎 浩史 委員	11 城 幸太郎 議長
	4 朝長 英美 委員	8 堀内 学 委員	12 田中 博文 副議長
			13 川添 太介 書記
4 視 察 項 目	墨田区の議会改革について		
5 視察先選定理由・目的	墨田区議会における議会改革の取り組み内容やその成果、課題を学び、自治体における議会運営の改善に活かすため。		
6 視 察 内 容	○墨田区の議会改革の背景 墨田区議会では、平成 19 年に「議会のあり方検討会」を設置して以来、議会改革が進められてきた。平成 30 年には「墨田区議会基本条例」を制定し、議会運営の基本方針を明文化するとともに、開かれた議会を目指した様々な取り組みが実施されている。この改革は区民の信頼向上と負託に応える議会を実現することを目的としている。 主な具体的な取り組み内容 1・議会運営方法の改善 ・通年議会の実施により、迅速かつ柔軟な区政対応を可能に。 2・区民参加と透明性の確保 ・本会議や委員会のライブ中継・録画公開を導入。さらに、字幕表示の取り組みを実施し、聴覚障害者への配慮を強化。 3・特別委員会の活用と政策形成サイクル ・特別委員会を通じて政策提言を行い、そのサイクルを確立（例：食 - 品ロス削減対策、情緒障害児支援など）。		

	4・議会事務局の提案権に関する詳細 墨田区議会において、議会事務局の提案権は「墨田区議会基本条例」の第23条に基づいて規定されており、全国的にも先進的な取り組みとして注目されています。 議会事務局は、議会活動のサポートを目的に、議会運営や改革に関する提案を行うことができます。この仕組みがあることで、事務局が単なるサポート役にとどまらず、議会改革の一端を担う重要な存在となります。さらに、職員にとっても「自分たちが議会の動かす一翼を担っている」という実感を得ることができ、責任感とモチベーションの向上にもつながっています。 これは条例が無くても可能ではあるのですが、職員さん曰く、条例化することで提案しやすい環境になったということでした。 5・オンラインによる一般質問が可能 会議規則の一部を令和6年2月21日に改正。 また本会議の欠席自由を改めることについて一定の方針を取りまとめました。傷病、育児、看護、介護、出産、家族の出産補助、災害などによって議員が議場に参集することが難しい場合に議長の許可を得たうえで、オンラインによる本会議の一般質問を行うことができるようになりました。
7 所 見	墨田区議会の改革は、開かれた議会の実現に向けた先進的な取り組みとして高く評価できます。当初、議会事務局の提案権を条例化しても、各議員の意識次第で現状でも提案は可能だと考えていたため、その必要性に疑問を感じていました。しかし、今回の視察で職員の方々から「提案がしやすくなった」との声を聞き、反対する必要性はないと考えるようになりました。 また、オンラインによる一般質問について、今回の視察ではあまり触れられませんでした。以前の自費視察で感じたことがあります。それは、議員の担い手不足を解消し、特に女性が出産や育児を理由に議員を諦めることがないようにするための重要な取り組みであるという点です。2017年に熊本市議会で、女性議員が乳児を抱えて議場に入ったことが問題となった件も、オンラインによる一般質問を取り入れられた理由の一つのようで、リモート参加の環境があればあのような問題は防げたのではないかと考えられました。このような視点は、批判よりも合意形成を重視す

	る墨田区議会らしい柔軟な発想だと感じました。大村市でも、多様な人々が議員を目指せる環境を整えるため、こうした取り組みの導入を検討すべきだと考えます。
--	---